



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害者」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年3月現在、川崎3、横浜2、県域13 計18名で活動中！

～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

～ サークルでの悩みは？ その1 ～

- ・ 家庭と仕事とサークルのバランスを取っていくことが難しい。
- ・ 休みが続くと、取り残されてしまったようで行きにくくなる。
- ・ 手話経験3年未満の人の定着率が悪い。3年を越えると多少休みが続いても抵抗無く参加できる。
- ・ 通訳の資格を取ると、忙しくなってしまうこともあるが、サークルに参加しなくなってしまう。
- ・ 資格を取ると、「通訳」という見られ方をししまい、気軽に参加できなくなる。
- ・ サークル内での講演会・講習会等の時の通訳。会員同士で行っても良いのか、派遣制度を使うべきなのか。以前は、このような機会を経験しながら手話を学んでいったが、制度を支えるという意味では制度を使った方が良いのか。

お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にしながら、悩んでいることは共有して、みんなが気軽に参加できる場所になると良いですね。問口は広く、ハードルは低く・・・

～ 定例会 ～

※ 2/25 (日) 定例会を行いました。

全通研討論集会参加者からの報告。各地域、継続した活動が形となっていくようです。“ローマは一日にして成らず”ですね。

19年度神通研の「サークル研究班」主催学習会について、話し合いました。これまで取り組んできた「災害時のサークルの役割」の第1歩として、中越地震被災地にてボランティア活動を行っていた方を講師にお迎えし、実際に体験されたことを参考に、一人ひとり出来ること、サークルに出来ることを参加者と共に考えていきたいと思ひます。

【次回定例会】3月31 (土) 10:30~12:30
横浜ラポール

～サークル研究班メンバーのささやき～

3/4 (日) 『神奈川県手話フェスティバル』に出かけました。

あたたかな良い天気！横浜駅からのバスを待っている間に、たくさんの仲間と手でおしゃべり。遠くの友に会えて、「お久しぶり～～」。

舞台では、美しい指の動きに魅せられて、吸い込まれるように船に乗り、川を下り、海に出てダイビングをし、魚に会い・・・夢の世界に連れて行ってもらいました。つきたてのやわらかいお餅や豚汁、焼きそば等どれもおいしく、楽しい1日でした。

A